

## 中村耕二教授 退職記念論集によせて

津田 信男

この度、甲南大学国際言語文化センター 中村耕二教授のご退職に際し、国際言語文化センター紀要『言語と文化』第21号を「中村耕二教授退職記念号」として刊行できることを大変光栄に存じます。中村耕二先生の甲南大学国際言語文化センターにおける英語教育発展への長きにわたる多大なるご貢献に対し深く感謝の意を表すとともに、中村耕二先生に本号を献呈申し上げる次第です。

中村耕二先生は、1996年4月に本学国際言語文化センターに英語担当の助教授として着任し、1999年4月には教授に昇任されました。2001年4月から2年間国際言語文化センターの所長を務められましたが、就任の2001年度に国際理解・異文化理解とコミュニケーション能力育成のため、国際言語文化科目を開設されました。2001年4月『ゼフィール・にしかぜ』第19号「国際言語文化センターが目指すもの」で中村先生は、「国際言語文化科目の目的は甲南大学における21世紀の国際人教育の体制を整備・強化するために、外国語教育を通して多文化の理解を深め、国際人としての教養と自己表現能力を養い、世界の人々と共生（symbiosis）できる資質を育成することにあります。」という所長メッセージを送られました。初年度国際言語文化科目の受講者は308名でしたが、2017年度の登録人数は956名となりました。16年前に中村先生のリーダーシップによって始まった国際言語文化科目は、今や大きく成長し、入学生の半数近くがこの科目の恩恵を受けています。

中村先生と私は同じ年に本学に就任して以来、一緒にいろいろな改革に携わる機会に恵まれました。最初の年には、英語科目の到達目標や概要を作成しました。その後ガイドラインに合った教科書選定の提案を行いました。中村先生は特に教授法に関して、学生が自らの意見を目標言語で発信する授業や、教師主導型の授業から学習者中心の授業への発想の転換を図り、教師側の意識改革を英語担当者会議等で指導されました。また、非常勤講師のクラス見学や教授法のアドバイス等を通して、多くの英語教員の意識が変わりました。

中村先生のご研究分野は、英語教授法、スピーチ・コミュニケーション、異文化理解教育、異文化コミュニケーション、国際理解教育、平和教育等多岐にわたっています。とりわけ英語教授法に関して、中村先生は『グローバル時代の英語教育』（2007年）を執筆されました。特にこの著書の中でプロセス・アプローチを実践・提言しておられ、この方法が学習者のコミュニケーション能力を高めていることを実証されています。学習者は最終

原稿前に英語で口頭発表し、その内容を学習者・教員が評価することでプロセス・アプローチが活かされ、さらに、自分の意見を書き・話すことによって、学習者のモチベーションを高めることができます。先生の学習者に対するチャレンジや学習者中心の実践的な教授法によって言語運用能力が高められていることが感じられます。

私や他の教員、多くの学生にとって中村先生は mentor（良き指導者、助言者）でした。先生の良きアドバイスのおかげで、コンピュータのクラス分けテストの開発、レベル別教科書リスト作成、新科目の提案、再履修者特別クラスやスポーツ推薦特別クラスの開設を共に実現することができました。また、先生の熱心なご指導のおかげで、教員採用試験に合格した多くの学生や国内や海外の大学院で勉学に励んだ学生などは先生のことを今でも慕っています。

何事にもポジティブでお元気な中村先生が隣の研究室にいらっしゃらなくなるのは誠に残念ですが、退職なさった後も、国際言語文化センター発展のため、先生には変わらぬご指導をお願い申し上げます。また、国際言語文化センター教職員一同、先生の今後の益々のご健勝とご活躍をお祈りいたします。